

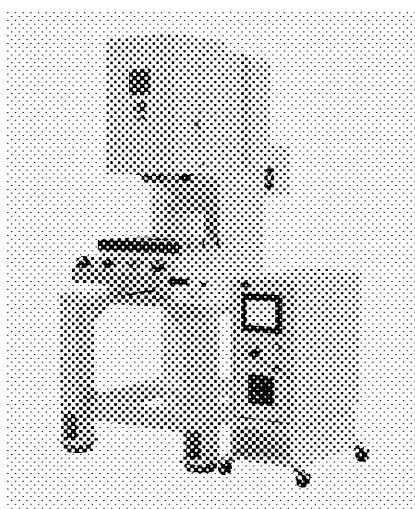
日本オートマチック 毎分400回加工

高速・小型サーボプレス

日本オートマチックマシン（東京都大田区、水野雅文社長）は、同社従来機比で最大速度が2倍の高速クランク式サーボプレス「RSC50ND」を開発した。C型フレーム構造の同社従来機と比べて最大ストローク数を2倍の毎分400に高め、プレス加工の生産性も倍増を見込む。消費税抜きの価格を1000万円以下に設定し、11月から販売する。高速で連続加工したい電子部品メーカーなどに提案し、1年で50台の販売を目指す。

電子部品製造など提案

開発品は加圧能力が49キロ（約5トン）で、小型サーボプレスの領域で高速、自動化ニーズに対応した。最大で毎分400回のプレス加工が可能。薄板材料



の切断、抜き加工、曲げなどを行える。

大きさは幅700ミリ、奥行き1152ミリ、X

小型・高速化を追求したクランク式サーボプレス「RSC50ND」

高さ1608ミリと、一般的な大型の高速プレスより小型・省スペースを実現した。高速化の実現には耐久性が求められるため、日本オートマチックマシンの従来機より高剛性のフレームを採用した。C型フレーム構造プレスで課題となる金型でのプレス時に生じる口開きを抑える。

主に搬送装置から薄板の材料を送り、コネクタ向け端子、リレーの接点部、半導体リードフレームなど多品種・小ロット品を連続

加工する用途を想定する。高速を追求し、ストローク長さは必要最小限の目視確認が可能な20ミリとした。

従来機を使う既存顧客の高速、自動化対応をはじめ、他社製の大型プレスから小型高速機に代替したい企業に売り込む。顧客の要望に応じて、周辺の他社製搬送装置なども提案する。26日に東京ビッグサイト（東京都江東区）で開幕する日本国際工作機械見本市（JIMTOF2026）では、搬送装置と組み合わせる実演する予定。